



雪谷の清流

岩手県立軽米高等学校
学校通信 54号
令和2年9月15日発行

進路ガイダンス(1学年) 8/31(木)

(株)マイナビより講師を迎え、進路ガイダンスが行われました。現在日本には大学が780校、専門学校が約2,800校、職種の数が3万種以上、会社の数が400万社以上あり、その中から1つを選択しなければならない。どのようにして自分に合った1つを選択していくのか。一つの会社の中でも製造、販売、企画、流通、広報、経理、人事など幅広く担当があるように、より多くのことを調べ、広い視野をもって、進路や世の中のことに目を向ける必要があるということ。今後のコース選択にとって大きな参考となりました。



進路結団式(3学年) 9/10(木)

民間就職、専門学校進学、大学・短期大学進学を希望するそれぞれの代表生徒による決意表明とだるまの目入れが行われました。金濱校長からは「自分の力で何かを成し遂げる経験は、その人生の宝になる」と激励の言葉をいただきました。



軽高生と語る会 9/1(火)



軽米中学校において、本校生徒による軽高生と語る会が開かれました。生徒会長の圃田咲弥さん、生徒会副会長の神久保武蔵くん、陸上競技部の小笠原彩夏さんの3名が軽米高校の魅力や生徒会行事、部活動の様子、そして軽米高校を選んだ理由や中学校の今の時期にしておくべきことなどについて、話をしました。先輩からの話に中学生たちは真剣に耳を傾けてくれていました。

インターンシップ(2学年) 7/28~31(火~金)

2年生Aコース22名が7月下旬の2~3日間、就業体験(インターンシップ)を実施しました。軽米町内外の公共機関や事業所16カ所で接客や商品管理、事務仕事や施設管理などを体験し、社会や地域の一員としての意識や自覚を高め、自己の将来設計・進路選択に役立てました。受け入れていただきました事業所の皆様、ありがとうございました。

なお、この様子は軽米町広報9月号でも特集記事で紹介されています。



授業始め式「校長講話」8/18(火)

授業始め式での、校長講話です。『道徳をひとことで言えば「誰かが引き受けなければならない仕事があるとしたら、それは私の仕事だ」という考え方。これば、合理的ではないし、フェアでもない。ただし、このように考える人が集団の中に何人かいないと、人間は共同的に生きていくことはできない。世の中を住みやすく、気分のいい場所にしようと思ったら「お先にどうぞ」と言える人を増やせばいい』内田 樹さんのコラムから、人生が幸福であるための道徳についてお話しをされました。日々日常のなかで、譲り合いやちょっとした気配り、率先した行動でお互いの気持ちがハッピーになることがあるのではないのでしょうか。

課外・大学入学共通テスト対策講座(2・3年Bコース) 7/28~30(火~木)

今年度から変わる大学入学共通テスト対策として、思考力、判断力、表現力等の学力向上を図るため、県内3校より、講師の先生をお迎えし、対策講座を開催しました。国語は松尾明日香先生(種市高)、数学は今村鉄兵先生



(盛岡一高)、英語は岩館巧磨先生(山田高)です。受講した2年3年Bコースの生徒は、緊張しつつも学びのポイントや今後の学習方法のヒントを与えていただきました。今年度は、感染症拡大防止により、予定の進路関係行事があいついで中止となっていましたので、校外からの講師による講座は、大変有意義で受講した生徒にとって刺激になるものでした。

被災地訪問学習(1学年) 7/31(金)

東日本大震災津波の被災地である野田村を1学年が訪問してきました。見学をとおして震災からの復興状況や自然災害と共存してきた人々の減災・防災の取り組みについて学ぶためです。役場職員と観光協会の方に避難経路にあたる高台へと誘導していただき、震災当時の様子とその後の復興状況について説明いただきました。今回の訪問で、防災意識や災害に備えた地域とのかかわりなど多くのことを学ぶことができました。



卒業生が語る会(1学年) 8/24(月)



1年生を対象に同窓生を招いた「卒業生と語る会」を開催しました。講師を務めていただいたのは、南部せんべいの製造販売を手がける小松製菓の日向正勝専務と町職員で県庁税務課に出向している川島幸徳さんです。日向さんは

「何でもいいので、1番になることを目指そう。目指す過程で自分が成長する」、川島さんは「何事も目的を明確にして、取り組んでほしい」と後輩にアドバイスを贈ってくれました。